

令和5年度 第2回 二宮町子ども・子育て会議 会議録

日 時 令和6年3月12日（火）午前10時～午前11時10分
場 所 二宮町町民センター2 Aクラブ室
出席者 相馬委員（会長）、山口委員（副会長）、上野委員、加藤委員、水島委員、
上田委員、掬川委員、飯塚委員
（欠席／齋藤委員）
事務局 神保子育て・健康担当参事兼子育て・健康課長、野田子育て支援担当課長、釧持
子育て支援班長、井上子育て支援班主査
傍聴者 なし

1. 開会

事務局：定刻前ではあるが始めさせていただく。令和5年度第2回二宮町子ども・子育て会議を開会する。本日はご多忙のところご出席いただき感謝申し上げます。本日も町が子ども・子育て支援事業計画の策定支援を委託している事業者の担当者も事務局の補助として出席させていただいている。

二宮町付属機関が開催する会議の公開に関する要綱により、本日の会議は公開とする。（異議なし、傍聴希望なし）

会議の次第に入る前に、前回の第1回目の会議でご出席の方とご欠席された方がそれぞれいらっしゃるので、前回ご欠席であった委員の方をご紹介します。まず、区分として幼稚園の代表の水島委員である。地区長連絡協議会から上田委員である。本日、齋藤委員がご都合により欠席となっているのでご報告申し上げます。

事務局より資料の確認

事前配布

次第、二宮町子ども・子育て支援に関するアンケート結果報告速報、第2期二宮町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況、特定教育・保育施設の利用定員の設定について

2. 議題

事務局：それでは議題に入る。ここからの進行については相馬会長にお願いしたいと思う。
よろしく願います。

会 長：それでは、議題に沿って進めてまいりたいと思う。

(1) 子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果速報について

会 長：議題（１）子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果速報について、事務局よりご説明をお願いします。

事前配布資料「二宮町子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果速報」について事務局より説明。

会 長：ただいまの議題（１）について、ご意見、ご質問等あるか。

委 員：調査の結果をどのように活かしていくのか。

事務局：去年の４月にこども家庭庁ができた。それより前から厚労省の管轄で各自治体において子ども・子育て支援事業計画をつくるという中で、今回、第２期目が計画期間中である。このアンケートを踏まえ、令和７年度からの第３期の計画をつくる。これらのアンケートの中で一番大きいところは、現状やこれからどのようなものを希望するか、今ご説明のあったところから保育などの要望、需要としてどれだけ保育量が見込まれるかを数値に落とし込んでいくところである。町内でどれくらいの保育の枠が必要か、現状はどれくらいあり、今後どのように展開していくべきなのかなど、数字の見方を国がおおよそこの質問項目のこの回答率からこのように計算するといったことも一律で出ているところもある。それを含め３期の計画でそういったところを落とし込んでいきたいというのがアンケートの趣旨である。

委 員：１０ページ、１１ページに具体的に要望や意見が出ている。この辺を参考にしていただけだと思う。例えば１１ページで、保護者の子どもの送迎の負担が大変だとある。中井町などは子育てタクシーがあったと思う。子どもの移動が多くなれば活気が出てくる。１つの案ではあるが、タクシーについても考えていただけたらと思う。

事務局：委員からもご意見あったが、アンケートの自由意見でいろいろな意見が出ている。我々は子育て・健康課であるが、その課だけではなく、いろいろな課に関わることであるので、それは各課に周知させていただく。中身については、すぐにできることとできないことがある。病院をつくってほしいと言われてもこれは難しい問題である。改善できる部分があれば各課に公開させていただき、できるところから進めていきたいと思う。

委 員：病院の話が出たが、小児科で夜間診療をやっているところはあるか。医師会に夜間もやってほしいとは簡単には言えないと思うが、町で週に１回やってくれるお医者さんに手当を出しているところもある。

事務局：専門でやっているところは２か所だけである。

委 員：小児科でなくても、内科でもよい。町が医師会を通して夜間診療についてお願いできないかと思う。

会 長：私も休日や夜間に子どもがけがや病気をしてしまうと、平塚の救急診療にいった。近くにあればと思った。理想と現実はあるとは思いますが、子育て世代が思っている意見であると思う。

委 員：この４年間、コロナで地域の行事がまったくできなかった。その間に人の流れが変わってきたと思う。今年、久しぶりに納涼祭を行ったが子どもの参加も少なかった。横のつながりがないということを非常に感じている。６ページの「放課後の過ごし方」とあるが、当然子どもが少ないので外遊びをしている子どもがほとんどいない。自宅で過ごしている子どもが多い。個人情報もあり、横のつながりがなくなっている。地域でもそうである。子ども会でも役員のなり手がいないということで、なくなってしまうこともある。何かよい策がないかと思う。役員のなり手にも苦労している。地域の行事は親子で参加してつながりができていくが、ゼロからまたやっていくような感じになってきている。

会 長：ただでさえ人口減になっている中で、コロナで分断があった。毎年あれば当たり前に行えるが、一旦なくなってしまったイベントをもう一度やるとなると大変になる。

委 員：１１ページの保護者の要望の２番で、子ども会などがうまく機能していない、もう少し地域とつながりたいというお気持ちがあるご家庭、子育て家庭がある。今、会長がおっしゃったことにもつながるが、町内でやっていた行事がいくつかあったと思う。町主催のイベントがコロナ前は比較的活発にあり、このコンパクトなサイズだからこそ２０地区で一堂に会しての運動会等があり、工夫をしながら町のほうとしてやろうとしていた経過がある。そこで行政と地域と合致するのではないかと思う。つながりたいという思いがあるご家庭があると思うと、コロナ前までに戻すのは大変かもしれないが、形を変えながら最近、比較的町外から移住する人も増えているので、そこがうまくつながれば、すべて町にやっていただくのではない方法もあるかと思う。そういったことも盛り込めたらよいのではないかと思う。

委 員：質問と意見がある。速報ということで、新年度に詳細をいただけるということである。次の年度に向けての施策といったものは詳細を見ながら話し合えるのか。

事務局：こちらのアンケートは、第３期の計画をつくるための基礎資料である。来年度、策定に向けて年４回ほど会議を予定している。その中で皆様方とご意見を交わしながら第３期をつくりあげていきたいと思う。

委 員：１０ページ、１１ページの他にもたくさん詳細な意見があると思っている。まだまだ拾える意見や、すぐにできることもあると思っている。細かい部分も見ながらできたらよいと思う。

資料の２ページの「子育てをする上で、気軽に相談できる人及び場所の有無」とある。９割方の人たちが相談できる人がいるということであったが、相談できる人がいない、相談できる場所がないという方たちが３．９％いる。ここを本来であればゼ

口にしていきたいと思っている。町としても助産師さんが新生児のいるお宅に訪問してくださり、ケアなどをしてくださっていると思うが、そういったものがあっても相談できる人がいないと思ってしまっている、ひとりで抱えてしまうという親御さんがいると思う。今あるサービスの上でもう少し声掛けをすとか、訪問をすとか、そういったところからゼロにしていけたらよいと思う。

もう1つ、8ページの「子育ての環境や支援への満足度」で、満足度の低い理由が5年前と比べて傾向に変化がなく、子育て世帯の遊び場が少ない、支援が充実していないといった理由が並んでいる。コロナ禍でやろうと思っていた施策ができなかったということもあるかと思うが、傾向に変化がないというところは残念だと思う。せっかくこのよう皆さんの力をお借りしてやっていることなので、この傾向を少しでも変えていけたらと思う。公園や子育て広場が少ないというところは減らしていけたらよいと思う。私自身も子どもを遊ばせるにあたって、公園はあるのだけれど遊ばせられる状況にない公園がある。遊具が劣化していたりといったところもある。公園や広場の質の担保といったところに少し目を向けていけたらよいと思う。

会 長：参考させていただきたいと思う。その他、いかがか。よろしいか。

（２） 第２期二宮町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

会 長：次に、議題（２）第２期二宮町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、事務局より説明をお願いします。

事前配布資料「第２期二宮町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況」について事務局より説明。

会 長：進捗状況をご説明いただいた。議題（２）についてご意見、ご質問等あるか。

お話を伺った中では、少ない予算の中で頑張っている印象である。

それでは、次に移らせていただく。

（３） 特定教育・保育施設の利用定員の設定について

会 長：議題（３）特定教育・保育施設の利用定員の設定について、事務局より説明をお願いします。

事前配布資料「特定教育・保育施設の利用定員の設定について」について事務局より説明。

会 長：冒頭の資料で、幼稚園や保育園に入るお子さんは増えているという説明があったのではないか。

事務局：保育園かと思われる。5年前と比べると、幼稚園と保育園の割合が逆転したという話であった。

会 長：ピークアウトに伴う、幼稚園の入所を希望される方が減少するということはあるか。

副会長：細かいところであるが、コロナ禍で子どもの出生数が減少したということであるが、コロナ禍というベースがあるのか。コロナ禍だから減っていると思ってしまう。

事務局：実際にコロナ禍の令和2年から出生数はそこで大きく下がっている。それがコロナの影響なのかわからないが、実際にはそこで下がってきている。

副会長：コロナ禍というのはいらないのではないか。

委 員：利用定員は減らさないといけないのか。利用定員より利用者数が少ないのであれば支障がないのではないか。

事務局：子育ての施設、保育園、幼稚園等の法律上の扱い方もここ10年来で大きく変わっている。海の星幼稚園は、従来型の幼稚園とは別に、町が費用負担などを担うべき施設型の幼稚園に移行している。そうすると、額の算定等においてシビアに定員数を実情に合わせて下げたほうが有利になるという意味もあるし、実状は定員一杯まではいっていないので下げるという園のお考えがある。

会 長：実際、保育園も減少傾向にある。

委 員：保育園も定員数を減らすのか。

会 長：やはり減少傾向にある地域などは、例えば90人定員のところ60人定員にしていくという形である。

他にご意見はないか。

委 員：変更してそれぞれ20名にした時に、クラス数も変わるのか。そうすると一クラスの人数が多くなるというリスクは高まる。うちもそうであるが、定員が絡んだ時は、希望する利用者が減ることと合わせて人材確保が全体的に問題である。そのこの提供なども変わったりするので、その辺は確認をした上でのアドバイスがあるとよい。利用する側とすれば手厚くなればよい。

会 長：職員数も減るのがわからない。

委 員：職員数とクラス数である。

委 員：クラス数に対する職員数になると思う。

委 員：担任の先生プラスアルファ支援が必要とされるお子さんが増えていると思う。そこが手厚くなるのであれば、定員が減っても安心感は得られるのではないかと思う。その辺は人材確保の問題と必要な配置のバランスを考えたところのこの結論だと思う。

事務局：今回、この会議に諮ったという結果も海の星幼稚園にお伝えさせていただく。その中で細かくお話をさせていただく。今回、実情の運営に合わせて定員を減らしているので、既によりよい体制を考えながら進めていると思う。こちらでも詳しく把握していないので、これをきっかけによく確認したい。

会 長：サービスの質が下がることはないようにしていると思う。
他にご意見はないか。では、次に移る。

(4) その他

会 長：議題(4)その他について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局：今年度の会議については本日で終わりとなる。来年度のスケジュールについて説明させていただく。前回の会議時に資料ということでスケジュール表をお示しさせていただいた。現状、スケジュール通りに進めば、来年度は第1回目を7月に予定している。ただ、事務の進捗具合により開催時期が前後するかもしれないが、開催日程については必ず前もって各委員の皆様の日程調整をさせていただく。また、こども大綱が示され、こども計画の策定というものが位置づけられている。町としては、今回の子ども・子育て支援事業計画を内包した形でこども計画をつくっていきたいと考えている。こちらは来年度予算の話になるので、予算の関係に関しては現在、議会のほうで審議をしている。予算が認めていただければ、こども計画の策定に必要なアンケート調査等を来年度実施し、より具体的な計画の策定に移ってまいりたいと思っている。よろしくお願いいたします。

会 長：二宮町としてはこども計画を策定したいということである。

事務局：補足であるが、今回、第3期の子ども・子育て支援事業計画をつくるために、委員の皆さんにもお集まりいただきこの会議をやっている中で、その計画を踏まえてそこに子ども・若者の意見を反映させたり、子どもの貧困対策を上乗せして他のものを含める形で更に大きくこども計画というものをつくるのが、こども家庭庁から市町村に対しての努力義務として与えられている。二宮町は今つくろうと思っていた第3期の支援事業計画を名称を改めて、内容もプラスアルファして新しいこども計画をつくらうとしている。本来、今年度の5年度、来年度の6年度でそもそもの第3期計画をつくらうとしていた中で、事務側の問題であるが予算もプラスアルファしてこども計画がつけられるようにしようと思っている。中身としては、今回いろいろとお聞きしたアンケートができ上がったところであるが、更にこども計画にするのに必要なアンケートは別に示されるので、新年度においては対象者を新たに考えた上で再度、アンケートを取ることを予定している。その辺も事業者と二人三脚で、委員の皆様にもこの会議で諮りながらやっていきたいと思っている。その流れで来年度、委員さんも今の方たちにはこのままお願いするが、プラス子育て団体の代表の方などもう少し人数を加えたほうがよいのではないかといいところがあり、来年度、委員を増やす動きを考えている。また、第1回7月を予定しているという話があったが、その時に委員が増えている可能性がある。その時にはご案内させていただきたいと思う。従来つくろうと思っていた計画より、更に一步踏み込んでいろいろ盛り込んでという動きになるので、皆様の貴重なご意見

を反映させていけたらと思っている。よろしくをお願いしたい。

委員：これは報告事項か承認事項か。

事務局：報告事項である。

会長：デザインとしては、子ども支援事業計画とこども計画が共同にあり、こども計画という名前になるのか。

事務局：そうである。第3期の子ども支援事業計画の中に含め、大きくこども計画という1つのものをつくろうと思っている。

委員：新たにアンケートを進めていくという話があった。前回は意見があったように、ウェブ上で回答できるような仕組みにしたかどうか。両方でアンケートに回答できるようにすると回答率も上がるのではないか。期間が短いが検討してほしい。

会長：現状、そういうシステムはないのか。

事務局：Web上で、アンケートを行うためのベースはいろいろとあると思う。事業者とも協議の上、それが実施できる方向で考えている。

会長：今の報告事項に対してご質問はないか。その他にご意見はないか。
ないようなので、議題を終了させていただく。

3. 閉会

事務局：本日、ご用意させていただいた案件は以上となる。今年度の会議はこれで終了となる。6年度に計画策定に向けて具体的な内容を更に議論していただく場になるので、ご協力をお願いしたい。それでは、これをもって令和5年度第2回二宮町子ども・子育て会議を閉会とさせていただく。